

## 『「蔵の街並み」再現・・・震災復興への取り組み』

前ガバナー補佐 小川 隆秀

この取り組みは、地域が掲げる「小京都 むらた」とそれを構成する「蔵の街並み」の震災からの復興を推進し、地域の人々の心の復興と今後の地域発展に貢献するものであると考えております。

また、このプロジェクトは、「村田再発見 「蔵の会」(平成17年11月設立、代表者佐々木安彦氏)からの要望に応じて、当クラブが中心となって支援申請を行い、国際ロータリー東日本震災復興基金日本委員会並びに国際ロータリー第2520地区ガバナーより、総額336万円の事業内容が承認されたものであります。

具体的には、村田町内にあった約100棟の蔵の街並みのシンボリックな存在である「升敏明邸」が今回の東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。

その中でも、道路に面し、歩行者に危険であることなどから、一番緊急性のある「脇蔵」の修復を行うものであります。

この蔵は、昭和初期に建造された土蔵で、「店蔵」「脇蔵」等で構成されております。

日頃より村田町が、地域振興に取り組んでいる「村田町家の雛めぐり」や「蔵の工芸市」「蔵の陶器市」等への利用が活発に行われており、早急な復興が望まれておりました。

復旧工事は、平成24年7月に着工し、この10月に完成の運びとなりました。蔵の復旧工事に携わった、当クラブ会員の三浦建設さんのご苦勞には心より感謝申し上げます。

本プロジェクト推進にあたり、国際ロータリー東日本震災復興基金日本委員会並びに国際ロータリー第2520地区ガバナー、柴田ロータリークラブ、大河原ロータリークラブの皆様には、はなはだ失礼かとは存じますが、この場をお借りし、心より厚く御礼申し上げます。